

答 辞

やわらかな日差しが差し込み、あたたかな春の訪れを感じる季節となりました。

本日は、様々な行事が自粛される中、卒業式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。西田学長をはじめ、諸先生方にご臨席いただく中で卒業できることを卒業生一同代表し、心より感謝申し上げます。

思い返すと、私たちは期待と不安を抱きながら、琉球大学の一員として大きな一歩を踏み出しました。慣れない環境に戸惑いながらも、多くの先生方や友人と切磋琢磨に過ごした時間は、かけがえの

ない宝物となり、これからの励みになる
ことでしよう。

大学生活では、多くの知識の習得、経験を得ることが出来ました。中でも、小学校や特別支援学校での教育実習では、教員という職業の魅力だけでなく、使命感や責任感を実感することができました。先生方が児童と真剣に向き合っている姿を見ている中で、子どもたちの将来を見据え、今必要なことは何か、を考えていくことが重要であると気づきました。教員になりたいという気持ちが強くなる一方で、自身の知識や実力不足に悔しい思いをしました。しかし、そこで留まるのではなく、仲間と共に教材研究に時間を費やし、活動や議論を重ねる中で、お互いの成長を感じることができました。

た。私は、四月から特別支援学校で教員として働くことになりました。初めての経験に不安もありますが、ここで学んだことを踏まえ、人一倍勉強し、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。実習で先生に頂いた「子どもたちに寄り添う気持ちを大切に」という言葉を忘れず、今後の教員人生に生かしていきたいです。

また、勉強で得た「知識」はもちろんです。ですが、大学生活での出会いの一つ一つが、今の私を形づくっており、全ての経験が将来の糧になると信じています。

同期の皆も、形は違えど、在学中に同様の経験をしたものと思います。そして、今、それぞれが選択した道を歩き始めま

す。それがどんな道であつても、私たちが大学で過ごしてきた日々は、かけがえのないものとなるでしょう。

このように充実した大学生活が送れたのも、ご支援いただいた大学職員、関係者の皆様、そして先生方のお陰で有り、改めて感謝申し上げます。

もちろん、臨席は適わなかったものの、これまで最も近くで、私たちを支えてくれた家族の皆様にも、卒業生一同に成り代わり、心からの謝意を表したいと思えます。有難うございました。

素晴らしい出会いと、実り豊かな時間をもたらしにくれた本学を旅立つにあたり、名残惜しさを抱かずにはいられます。

せん。しかし、これからは、一人の教員として子どもたちを支え、今後の教育を担っていける人材になれるよう、挑戦と成長をし続けていきたいです。

最後となりましたが、本日はご多忙の折、ご臨席頂きました多くの皆様に、卒業生を代表して、改めて深く御礼申し上げます。我らが琉球大学の更なる発展を願い、答辞とさせていただきます。

令和三年三月二十三日

卒業生代表

教育学部 特別支援教育学科

岩下 希成